metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by
provided by Okayama University Scientific Achievement R

【原　　著】

教員志望学生の指導のあり方（５）
―教職相談室の利用の実態から―

小川　潔　松原　泰通

Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (5):
Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Kiyoshi OGAWA , Yasumichi MATSUBARA

2013
岡山大学教師教育開発センター紀要 第 3 号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.3, March 2013

岡山大学教師教育開発センター紀要，第３号（2013），pp.162-170

【実践報告】

原　著

教員志望学生の指導のあり方（５）

―教職相談室の利用の実態から―

小川　潔※1　松原　泰通※2

要旨：教職相談室では主に教職志望の学生を対象に，小論文，集団討論，集団面接，個人面接，模擬授業など，教員採用試験に関する指導を中心とした様々な相談活動を行っている。今年度は，小論文指導において内容面を充実させるための指導の改善を行った。その結果，小論文を書いてくる学生が増加するとともに，小論文を書くことで培った力を面接にも生かすことができた。また，教員採用試験に最終合格した学生とそれ以外の学生では，教職相談室の利用回数に大きな差が見られた。教員採用試験に最終合格した学生の教職相談室の平均利用回数は15.94回であったのに対して，１次試験のみ合格の学生の平均利用回数は10.32回であり，合格しなかった学生の平均利用回数は2.83回であった。更に，教職相談室に１２月以降の早い時期に利用開始した学生ほど教員採用試験の合格率が高くなることが明らかになった。

キーワード：教教職相談室，教員採用試験，小論文指導，利用回数，利用開始月

※１小川　潔（岡山大学教師教育開発センター）
※２松原　泰通（岡山大学教師教育開発センター）

Ⅰ　教職相談室の利用者数の状況

表１・図１は，平成１７年４月から平成２４年１１月までの利用者数の推移である。平成１７年度から平成２２年度までの年間利用延べ人数は増加を続けてきた。これは，平成２０年度から教職相談室の教員が２人になったこと，年度初めの学生向けオリエンテーションで学生への周知を徹底したこと，他の教員から学生に教職相談室を利用するように勧めてくださったこと，そして，学生の口コミで学生間における教職相談室の認知度が高まったためなどであると考えられる。しかし，平成２３年度は平成２２年度と比較して減少している。これは，毎年４月に教職相談室が指導している教採自主講座の「小論文の書き方」と「面接や模擬授業の受け方」の開講日が，平成２３年度は他の講義や教採説明会と重なり，受講生が少なくなったためである。

多くの３年生が来室し始めるのが前年の１２月であるため，平成２３年１２月から平成２４年１１月までの集計でみると，年間利用延べ人数は４１８９人であり，その内他学部生が４１０人であった。平成２３年度の利用者数と比較すると，年間利用延べ人数は４８８人，他学部生は１２９人増加した。これは，平成２４年度に開講した教採自主講座の受講生の数がほぼ例年通りであったということと，教師教育開発センターの体制充実にともない他学部生の教師志望者が増えたためであると考えられる。しかし，教職相談室の現在の体制では年間４２００人程度を指導できるのが限度であり，これ以上受け入れたくても受け入れることができないのが現状である。最も利用者の多い４月から８月までは，教職相談室の指導を受けたいという学生の予約が一ヶ月ぐらい前からいっぱいになり，学生にとって利用したくても利用できない状態となる。そのため，開室時刻を早めたり，開室時間を延長したり，学生１人当たりの指導時間を短くしたり，部屋を分けて同時に指導したりしているが，これ以上の利用者を増やすことは物理的に困難な状態となっている。そこで，利用したくても利用できない学生に対して，教職相談室の指導を体験した後，同じような学習方法で学生同士でお互いに指導し合うように働きかけている。

表２は，平成２３年度の学生別利用者数である。表３は，平成２３年１２月から平成２４年１１月までの学生別利用者数である。平成２３年度の年間利用者３７０１人の内他学部生が２８１人であった。他学

部生の割合は７．６％である。平成２３年１２月から平成２４年１１月までの集計では，利用者の全体が４１８９人であり，その内他学部生が４１０人であった。他学部生の割合は約９．８％と，約２．２％上昇している。教師教育開発センターの体制充実にともない，近年他学部生の利用が増える傾向にある。

表４は，平成２３年度の教職相談室利用内訳である。表５は，平成２３年１２月から平成２４年１１月までの教職相談室利用内訳である。平成２３年度の集計を平成２３年１２月から平成２４年１１月までの集計と比較してみると，平成２３年１２月から平成２４年１１月までの集計で大きく増加しているのが,「個人･集団面接」と「作文添削」である。「個人･集団面接」は，４７１人から１５８５人と１１１４人増加している。「作文添削」は，１１３７人から１６３９人と５０２人増加している。これは,岡山県･市の今年度採用試験の１次試験に「個人面接」，２次試験に「小論文」が新たに課されたためである。ただ，岡山県・市の募集要項が公開されたのが平成２４年４月２５日であったが，募集要項公開以前の平成２３年１２月から平成２４年４月までの５ヶ月間だけの作文添削においても９１０人と前年同期より３１７人増加している。これは今年度，学生が意欲的に小論文を書くことができるようにするための小論文指導の改善を行ったためであると考えている。詳しくは後述する。

表１　教職相談室利用者数の推移

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
17年度	104 (47)	184 (21)	168 (13)	195 (18)	267 (2)	29 (3)	81 (9)	46 (6)	33 (12)	17 (5)	31 (8)	23 (2)	1178 (146)
18年度	134 (78)	213 (23)	193 (19)	205 (13)	174 (2)	24 (0)	87 (6)	37 (9)	25 (8)	37 (7)	42 (8)	49 (11)	1220 (184)
19年度	196 (61)	230 (12)	222 (24)	222 (19)	278 (6)	21 (2)	61 (2)	30 (10)	23 (13)	31 (22)	27 (2)	36 (9)	1377 (182)
20年度	209 (96)	539 (137)	387 (17)	539 (21)	430 (7)	37 (3)	148 (19)	88 (12)	104 (43)	90 (28)	86 (13)	113 (12)	2770 (408)
21年度	305 (149)	479 (94)	496 (30)	623 (25)	421 (13)	66 (4)	176 (22)	106 (26)	99 (26)	154 (33)	152 (17)	126 (9)	3203 (448)
22年度	731 (238)	710 (52)	556 (18)	711 (14)	501 (15)	87 (4)	261 (12)	155 (17)	230 (47)	293 (43)	217 (14)	141 (3)	4593 (477)
23年度	359 (143)	596 (85)	458 (38)	505 (24)	526 (15)	99 (4)	200 (6)	106 (21)	165 (65)	266 (39)	257 (21)	164 (9)	3701 (470)
24年度	772 (241)	650 (67)	495 (24)	654 (19)	414 (21)	59 (5)	195 (22)	98 (21)					3337 (420)

図１　教職相談室利用者の月別比較

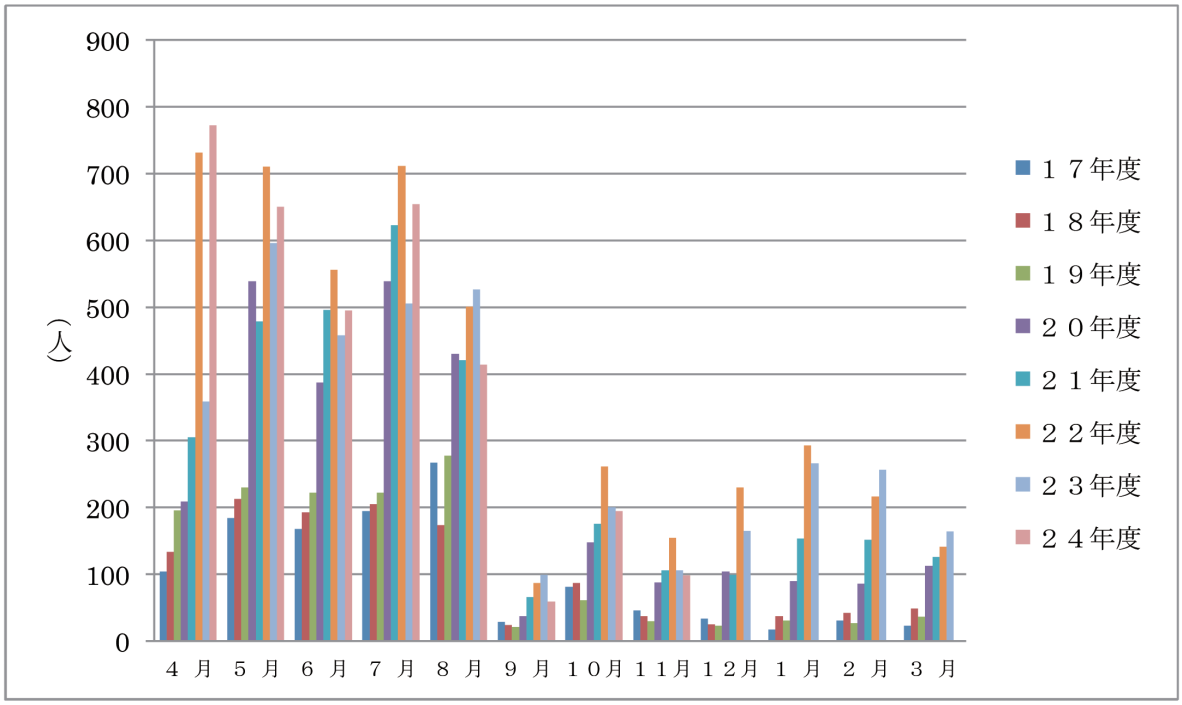


表 2　平成 23 年度学生別利用者数

2012年3月31日現在

	学部					大学院			その他																合計	合計
											他学部他															
											卒業生			他学部												
	4 年	3 年	2 年	1 年	計	2 年	1 年	計	別 科	特 専	教育学部	教育学研究科	計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッチングプログラムコース	自然科学研究科	その他			
4 月	271	4	1	2	278	11	29	40	9	2	1	0	1	7	2	0	9	1	0	0	1	8	1	41	359
5 月	442	5	0	0	447	20	39	59	35	0	0	0	0	9	0	0	30	1	2	0	3	6	4	90	596
6 月	302	0	0	0	302	44	27	71	58	0	0	0	0	6	0	0	7	1	0	1	0	8	4	85	458
7 月	363	3	0	0	366	19	22	41	61	3	0	0	0	8	0	0	20	0	0	1	0	3	2	98	505
8 月	403	0	0	0	403	17	36	53	37	0	4	0	4	10	0	0	17	0	0	0	0	2	0	70	526
9 月	77	0	0	0	77	0	7	7	2	0	0	0	0	2	0	0	10	0	0	0	0	1	0	15	99
10 月	165	2	0	0	167	5	14	19	1	1	0	0	0	5	0	0	5	0	1	0	0	1	0	14	200
11 月	54	23	0	0	77	4	4	8	11	0	0	0	0	3	0	0	7	0	0	0	0	0	0	21	106
12 月	5	125	0	0	130	3	5	8	7	1	0	0	0	13	0	0	2	0	0	0	0	4	0	27	165
1 月	11	227	0	0	238	0	1	1	11	0	0	0	0	9	0	0	2	0	0	0	0	5	0	27	266
2 月	0	221	1	0	222	0	2	2	7	0	0	0	0	4	0	0	15	0	0	2	0	5	0	33	257
3 月	2	145	0	0	147	1	5	6	0	0	0	0	0	2	0	0	5	0	0	0	0	4	0	11	164
合 計	2095	755	2	2	2854	124	191	315	239	7	5	0	5	78	2	0	129	3	3	4	4	47	11	532	3701

＊注：利用者数はのべ人数である。

表 3　平成 23 年 12 月から平成 24 年 11 月までの学生別利用者数

2012年11月30日現在

	教育学部	教育学研究科	その他																							合計	合計
					卒業生				他学部																		
									学部									大学院									
			別 科	特 専	教育学部	教育学研究科	別科	計	文学部	法学部	経済学部	理学部	工学部	環境理工学部	農学部	マッチングプログラムコース	計	環境生命科学	自然科学博士前期理学系	自然科学博士前期工学系	社会文化科学博士前期	環境学博士後期	計	その他	計		
12 月	130	8	7	1	0	0	0	0	13	0	0	2	0	0	0	0	15	-	-	-	-	-	4	0	27	165	
1 月	238	1	11	0	0	0	0	0	9	0	0	2	0	0	0	0	11	-	-	-	-	-	5	0	27	266	
2 月	222	2	7	0	0	0	0	0	4	0	0	15	0	0	2	0	21	-	-	-	-	-	5	0	33	257	
3 月	147	6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5	0	0	0	0	7	-	-	-	-	-	4	0	11	164	
4 月	653	52	12	3	0	0	0	0	16	0	1	13	0	0	0	0	30	5	12	0	5	0	22	0	67	772	
5 月	486	42	47	2	1	2	0	3	14	0	0	17	2	0	0	0	33	5	25	0	7	0	37	0	122	650	
6 月	363	20	59	0	6	0	0	6	14	0	0	11	1	0	1	0	27	3	12	0	5	0	20	0	112	495	
7 月	482	25	78	1	0	2	0	2	23	0	0	4	0	1	0	0	28	3	30	1	4	0	38	0	147	654	
8 月	306	23	22	2	5	1	1	7	11	1	0	7	0	0	0	0	19	2	28	0	3	1	34	1	85	414	
9 月	51	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	6	59	
10 月	155	5	6	0	2	0	0	2	12	0	0	4	1	0	1	0	18	1	7	0	1	0	9	0	35	195	
11 月	76	1	0	0	1	0	0	1	9	0	0	4	0	0	0	0	13	0	6	1	0	0	7	0	21	98	
合 計	3309	187	252	9	15	5	1	21	127	1	1	86	4	1	4	0	224	19	121	2	25	1	186	1	693	4189	

＊注：利用者数はのべ人数である。

表 4　平成 23 年度教職相談室の利用の内訳

2012年 3月31日現在

項目 ＼ 月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1. 教員採用試験に関すること	集団討論	7	267	345	287	29	23	55	21	2	27	0	0	1063
	個人・集団面接	25	6	26	92	227	25	37	25	2	3	2	0	470
	模擬授業	0	0	0	31	141	0	5	4	1	0	0	2	184
	作文添削	200	247	56	46	77	17	17	10	60	139	158	110	1137
	DVD視聴	48	17	10	3	6	0	6	17	26	60	74	42	309
	情報・資料提供等	63	46	17	43	16	4	8	18	55	28	16	8	322
小　計		343	583	454	502	496	69	128	95	146	257	250	162	3485
2. 講師採用に関すること		4	5	0	0	1	5	3	0	0	2	0	0	20
3. 進路に関すること		8	7	4	3	28	25	66	9	17	6	4	2	179
4. 学校教育に関すること		4	1	0	0	1	0	3	2	2	1	3	0	17
合　計		359	596	458	505	526	99	200	106	165	266	257	164	3701

表５　平成 23 年 12 月から平成 24 年 11 月までの教職相談室利用内訳

項目	月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
1. 教員採用試験に関すること	集団討論	2	27	0	0	16	180	144	211	73	0	26	26	705
	個人・集団面接	2	3	2	0	198	57	155	237	98	13	17	14	796
	模擬授業	1	0	0	2	2	0	1	50	97	1	9	0	163
	作文添削	60	139	158	110	443	312	146	115	108	18	17	13	1639
	DVD視聴	26	60	74	42	60	21	17	3	0	0	0	4	307
	情報・資料提供等	55	28	16	8	40	63	27	33	21	15	17	14	337
小　計		146	257	250	162	759	633	490	649	397	47	86	71	3947
2. 講師採用に関すること		0	2	0	0	4	8	1	2	10	1	11	4	43
3. 進路に関すること		17	6	4	2	8	9	2	3	7	11	97	19	185
4. 学校教育に関すること		2	1	3	0	1	0	2	0	0	0	1	4	14
合　計		165	266	257	164	772	650	495	654	414	59	195	98	4189

Ⅱ　本年度の取り組み

本年度も主に次のような取り組みを行ってきた。

①　教員採用試験に向けての勉強方法についての相談

②　学校支援ボランティアについての相談

③　教師の仕事全般についての相談

④　教師力養成講座のビデオ視聴

⑤　教員採用試験に向けての個別的・具体的な指導

ア　小論文

イ　個人面接

ウ　集団討論

エ　模擬授業

オ　ロールプレイングや場面指導

上記の具体的な取り組みについては，これまでの「教員志望学生の指導のあり方（１）～（４）」で記してきたので,今回は,今年度指導の改善を行った「小論文指導」について述べる。

学生が小論文を書いて練習するということは，単に教員採用試験で合格できるような論文が書けるようになるということが目的ではなく，教師になったときに「自分はこんな取り組みをしたい」というものを創り上げたり，教師としての自覚や心構えを形成したり，教師になりたいという意欲や熱意を高めたりすることが目的であると考えている。しかし，教育実習や学校支援ボランティアの経験しかない学生にとって，「あなたは教師としてどのように取り組むか」という問いに対する自分なりの考えを書くということは相当な困難を伴うものである。そのため，これまで多くの学生が途中で挫折してしまい小論文を書き続けるということができなかった。そこで，今年度は学生が意欲を持って書き続けることができるように，下記の点に配慮して小論文指導を行った。

・　学生の書いてきた文章の善し悪しにかかわらず，書いてきたということをしっかりと受け止めて，まずはそのことを褒める。

・　書いてきた論文の中でよいところを見つけ，そのことをしっかり褒める。

・　まず，与えられたテーマの「重要性・必要性・大切さ」を社会の情勢や子どもの実態から自分なりに共感的に把握することの大切さを実感させる。

・　書き方などの形式的な面より，自分が教師になったらこのように取り組みたいという内容面を豊かにするということに重点を置いた指導をする。

・　自分が教師になって取り組みたいことを教育実習やボランティアなどの経験もとにしてできるだけ学生に語らせ，その価値を認めたりより価値の高いものを示したりしながら学校現場での具体的な取り組みを指導する。

・　学生に，「なるほど，このように書けば更によくなるのだなあ」ということが実感できるように，具体的な表現方法や記述方法を示しながら指導する。

以上のような指導を行うことによって，平成２３年１２月から平成２４年１１月までにおいて小論文を書いてくる学生が１６３９人になり，前年同期より５７６人増加した。また,「小論文を書くことによって，個人面接・集団討論・模擬授業・場面指導などに対して自信を持って臨めるようになった」と言う

学生が増加した。これからも，特に１２月から３月ごろまでの早い時期に１週間に１つぐらいのペースで小論文を書き続けることを勧めていきたいと考えている。

Ⅲ　教職相談室の利用回数・利用開始月と教員採用試験の合否

教職相談室を利用した回数並びに教職相談室を利用し始めた月と教員採用試験における合否の結果について比較する。

１　分析の対象

(1) 分析対象期間

教職相談室の利用回数について，これまでは，その年度の４月１日から１１月３０日までの８ヶ月間としてきたが，今回は，平成２３年１２月１日から平成２４年１１月３０日までの１２ヶ月間とする。その理由は，教員採用試験に向けて教職相談室を利用し始めるのは，３年生が教育実習を終え，１２月初旬に開催される教職ガイダンスをきっかけにすることが多いからであり，１２ヶ月間を分析対象期間とした方が利用回数の正確な数字を出すことができるからである。また，その年度の幼稚園や保育園を含めた教員採用試験のほとんどが１１月３０日までには終わり，１２月からは来室する学生のほとんどが３年生になるからである。

(2) 分析対象者

上記分析対象期間に教職相談室を利用した学生は４２０人であった。その内，１年生，２年生，３年生などの教員採用試験を受けていない者は９６人であった。４２０人から９６人を除いた３２４人の教員採用試験受験者の内，６９名が試験結果の合否が不明であるため更にそれを除いた２５５名を教職相談室を利用した学生としての調査対象とする。一方，教育学部と教育学研究科の学生で，教員採用試験を受験し合否が分かっている者の内，教職相談室を利用しなかった学生は５４人であった。そこで，教職相談室を利用した２５５人と教職相談室を利用しなかった５４人を加えた３０９人を調査対象者とする。

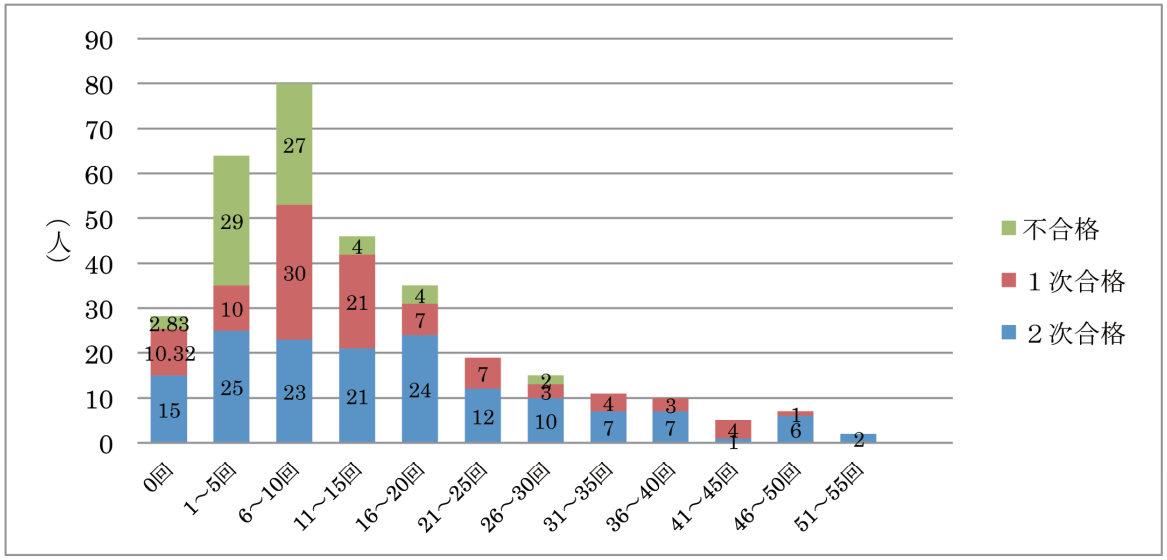
(3) 分類

３０９人の内，教員採用試験に最終的に合格した１５３人を「２次合格」群，１次試験に合格したが２次以降の試験には合格しなかった９０人を「１次合格」群，１次試験に合格しなかった６６人を「不合格」群と分類した。なお，複数の地域で受験した学生については，最も結果の良かったものをその学生の最終結果として採用した。各群に分類された学生の教職相談室の利用回数を示したものが表６及び図２である。

表６「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否」

合否	平均利用回数(回)	教職相談室利用回数ごとの人数（人）												計(人)
		0回	1~5回	6~10回	11~15回	16~20回	21~25回	26~30回	31~35回	36~40回	41~45回	46~50回	51~55回	
2次合格	15.94	15	25	23	21	24	12	10	7	7	1	6	2	153
	%	9.8	16.4	15.0	13.7	15.8	7.8	6.5	4.6	4.6	0.6	3.9	1.3	100
1次合格	10.32	10	30	21	7	7	3	4	3	4	1	0	0	90
	%	11.1	33.4	23.4	7.8	7.8	3.3	4.4	3.3	4.4	1.1			100
不合格	2.83	29	27	4	4	0	2	0	0	0	0	0	0	66
	%	43.9	40.9	6.1	6.1		3.0							100
全体	11.5	54	82	48	32	31	17	14	10	11	2	6	2	309
	%	17.6	26.6	15.5	10.4	10.0	5.5	4.5	3.2	3.6	0.6	1.9	0.6	100

図２「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否」



２　教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否

一人あたりの教職相談室の平均利用回数は，２次合格群は 15.94 回，１次合格群は 10.32 回，不合格群は 2.83 回，全体で 11.50 回であった。昨年度の集計結果と比較すると，２次合格群は 4.46 回の増加，１次合格群も 3.01 回の増加，不合格群は 1.31 回の減少であった。不合格群は減少したが，２次合格群と１次合格群は大きく増加している。これは，昨年度までは含めていなかった平成２３年１２月から平成２４年３月までの４ヶ月間の利用回数を加えたためである。

本年度の各群の利用回数を比較すると，２次合格群と１次合格群では約 1.5 倍の差があり，１次合格群と不合格群では約 3.6 倍の差があり，２次合格群と不合格群では約 5.6 倍の差があった。

利用回数ごとの人数をみると，不合格群では０回が最も多く全体の 43.9％であり，０回と１～５回の利用者が全体の 84.8％であった。１次合格群では１～５回が最も多く全体の 33.4％であり，０回と１～10 回の利用者が全体の 67.9％であった。このことから，２次合格に至らなかった学生は，２次合格群の学生に比べて教職相談室の利用回数が少なかったと言うことができる。また，２次合格群とそれ以外の群では，11 回以上の利用者に違いが見られた。２次合格群では，11 回以上の利用者が 90 人 (58.8％) であるのに対して，１次合格群では 29 人 (32.2％)，不合格群では６人 (9.0％) であった。このことから，今後，教職相談室の利用を１１回以上にすることを学生に勧めるとともに，１６回以上利用すると合格率が大きく上昇することを伝えていきたい。

３　教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否

教職相談室を利用した学生で教員採用試験の合否が確認できる２５５人の利用開始月と合否の結果を示したものが表７である。平成２３年の１２月に教職相談室を利用し始めた７６人の内６１人が２次合格し，１４人が１次合格している。２次合格者と１次合格者の合計は７５人であり，全体の 98.7％をしめている。以下，２次合格者の数と割合は，１月２２人（66.6％），２月９人（56.3％），３月６人（60.0％），４月２９人（43.9％），５月８人（22.2％），６月１人（11.1％），７月２人（40.0％）となり，利用開始月が遅くなるほど２次合格者の数と割合は減少していく傾向にあり，早い時期から利用すればするほど合格率が高くなるということが明確になった。このことから，３年生の教育実習が終わった時期や１２月初旬に開催される教職ガイダンスをきっかけにして，まず一回教職相談室に来室することを勧めたい。

表７「教職相談室の利用開始月と教員採用試験の合否」

利用開始月	2次合格者数		1次合格者数		不合格者数		合計人数	
月	人	%	人	%	人	%	人	%
12	61	80.3	14	18.4	1	1.3	76	100
1	22	66.6	6	18.2	5	15.2	33	100
2	9	56.3	7	43.7	0	0	16	100
3	6	60.0	3	30.0	1	10.0	10	100
4	29	43.9	22	33.3	15	22.7	66	100
5	8	22.2	15	41.7	13	36.1	36	100
6	1	11.1	7	77.8	1	11.1	9	100
7	2	40.0	3	60.0	0	0	5	100
8	0	0	3	75.0	1	25.0	4	100
9	0	0	0	0	0	0	0	100
10	0	0	0	0	0	0	0	100
11	0	0	0	0	0	0	0	100
合計	138	54.1	80	31.4	37	14.5	255	100

Ⅳ　今後の取り組み

・　利用者の集計を前年度の１２月から本年度の１１月までとすることで，教職相談室の利用開始時期が早ければ早いほど教員採用試験の合格率が高くなるということが明らかになった。そこで，３年生に対して，教育実習が終わってからの時期か，１２月の教職ガイダンスが開催されるのをきっかけにして，まずは１回教職相談室に来室することを勧めていきたい。このことを全体の学生に伝える機会としては，４月の学年始めのオリエンテーションと１２月の教職ガイダンスの２回である。この機会を有効に利用して学生にしっかり利用を進めていきたい。

・　教職相談室に初めて来た学生の多くが，「教職相談室のドアをノックするのに勇気がいる」と語る。できるだけ多くの学生に来てもらいたいと思っている私たちとしては意外であったが，学生としては，「なかなか入りずらい」と感じているのが現実のようである。そこで，これも学年始めのオリエンテーションや１２月に開催される２年生や３年生を対象とした教職ガイダンスの場で，学生が気楽に相談に来れるような働きかけを行ったり，教職相談室の雰囲気をより親しみやすいものにしたりしたいと考えている。また，一度相談に来た学生に，「また来たい」「今度は友達も誘って来よう」と思ってもらえるような個別の対応にも心がけていきたいと考えている。

・　教職相談室の指導は小論文指導から始めるが，本論でも述べたように自分の考えをまだ十分には持っていない学生にとって様々な教育課題に対しての自分なりの考えを書くということは大きな困難をともなうものである。そこで，論作文を持ってきた学生に対して，よいところをしっかりと認めるとともに，このように書くと更によくなるということを具体的に示して，学生が，「なるほど，このように書くと更によくなるのか」「論文だけでなく，面接でもこのように答えるとよいのか」「このようなことが書けるようになるためにはボランティアの経験が必要だな」「次のテーマでまた書いてみよう」と意欲を持って小論文に取り組むことができるような指導を更に心掛けていきたいと考えている。

・　利用回数ごとの教採合否結果を示したものが表８である。教員採用試験合格者の相談室平均利用回数は 15.94 回であるが，利用回数ごとの合格者数と不合格者数を比較してみると，利用回数が 0 ～ 10 回では概ね不合格者が合格者を上回っているが，　10 回以上では合格者が不合格者を上回っている。16 回以上では，74％が２次合格し，22％が１次合格している。今後もまずは，小論文の指導や教師力養成講座のビデオ視聴で 10 回以上の利用を働きかけていきたい。それを４月まで続け，５月の連休明けから集団討論や面接などの指導を行い，試験当日までに 16 回以上の利用を実現するように働きかけていきたい。

表８「教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否結果」

利用回数	２次合格者数	１次合格者数	不合格者数	合　　計
０	１５	１０	２９	５４
１	２	８	７	１７
２	７	７	８	２２
３	３	７	４	１４
４	５	５	６	１６
５	８	３	２	１３
６	３	６	３	１２
７	６	４	１	１１
８	６	４		１０
９	５	５		１０
１０	３	２		５
１１	４	２	２	８
１２	６	１		７
１３	５		１	６
１４	２		１	３
１５	４	４		８
１６	５	２		７
１７	６	１		７
１８	５	２		７
１９	３	２		５
２０	５			５
２１	３	１	１	５
２２	２			２
２３	３	１	１	５
２４	３	１		４
２５	１			１
２６	３			３
２７	５	３		８
２８				
２９				
３０	２	１		３
３１	２	２		４
３２	２	１		３
３３	２			２
３４				
３５	１			１
３６	３			３
３７	２	２		４
３８	１	１		２
３９	１	１		２
４０				
４１				
４２				
４３				
４４				
４５	１	１		２
４６				
４７	２			２
４８	１			１
４９	２			２
５０	１			１
５１	１			１
５２				
５３				
５４				
５５	１			１
合計人数	１５３	９０	６６	３０９
平均回数	１５．９４	１０．３２	２．８３	１１．５０
	２４３９	９２９	１８７	３５５５

Title：Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (5):
Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Kiyoshi OGAWA and Yasumichi MATSUBARA
(Center for Teacher Education and Development, Okayama University)
Keywords: Teaching Profession Consultation Office, students wishing to become teachers, teaching staff examination,
Abstract:The Teaching Profession Consultation Office helps the students wishing to become teachers mainly in their studying for teaching staff examination. Our various kinds of guidance about the teaching staff examination include helping students with essays, group discussions, group interviews, individual interviews, mock classes. This school year, we offered them more detailed advice to the content of the essays. By spending far more time on writing more essays, they could raise their consciousness of teaching profession, which turned out that they could cope well with the interviews. There was a great difference in the frequency of the visit between the students who had passed the teaching staff examination and those who had not. The average frequency of the students who has passed the exam is 15.94. On the other hand, that of those who has passed only the first stage exam is 10.32 and that of those who has not passed is 2.83. It is also obvious that the earlier they started to visit the office continually, the higher possibility there was that they could succeed.